

目 次

まえがき v

第1章 英詩の形式の歴史的概観：古英語と中英語……………	1
1.1. 古英語の頭韻詩	3
1.2. 中英語の頭韻詩	12
1.3. 中英語の脚韻詩	21
1.4. まとめ	32
第2章 英詩の形式の歴史的概観：近代英詩以降……………	33
2.1. 近代英語期以降の詩形	34
2.2. 弱強五歩格の形式	36
2.3. 無韻詩	42
2.4. 讚美歌 (hymn) の韻律と押韻	50
2.5. その他の形式1：sprung rhythm	56
2.6. その他の形式2：自由詩	62
2.7. まとめ	66
第3章 英詩のリズムと統語論，音韻論……………	69
3.1. 律格の厳密さ	70
3.2. 近代英詩の韻律の鑄型からの逸脱概観	73
3.2.1. Shakespeare	74
3.2.2. Milton	79
3.2.3. Donne	81
3.2.4. Pope	85
3.2.5. まとめ	85

3.3.	事例研究 1 : Emily Dickinson	86
3.4.	事例研究 2 : Robert Frost	97
3.5.	事例研究 3 : T. S. Eliot	100
3.6.	事例研究 4 : 民謡の歌詞	104
3.7.	まとめ	108
第 4 章	英詩の脚韻と音韻論	109
4.1.	脚韻の原則 : 完全脚韻	110
4.2.	不完全脚韻	112
4.3.	事例研究 1 : Emily Dickinson	113
4.4.	事例研究 2 : William Butler Yeats	122
4.5.	事例研究 3 : ロック音楽の歌詞	128
4.6.	Robert Pinsky	133
4.7.	Consonance 以外の「不完全脚韻」	136
4.8.	まとめ	140
第 5 章	英詩の詩行構成と統語構造, 音韻構造	141
5.1.	近代英詩以降の詩行構成の「原則」と「例外」	143
5.2.	脚韻詩における「句またがり」: Emily Dickinson の場合	146
5.3.	Dickinson の詩における「句またがり」の規則性	152
5.4.	Dickinson の詩行構成の意味合い	159
5.5.	他の詩人の脚韻詩における「句またがり」	163
5.6.	アメリカ自由詩における「句またがり」	167
5.7.	まとめ	173
あとがき		175
参照文献		179
索引		189